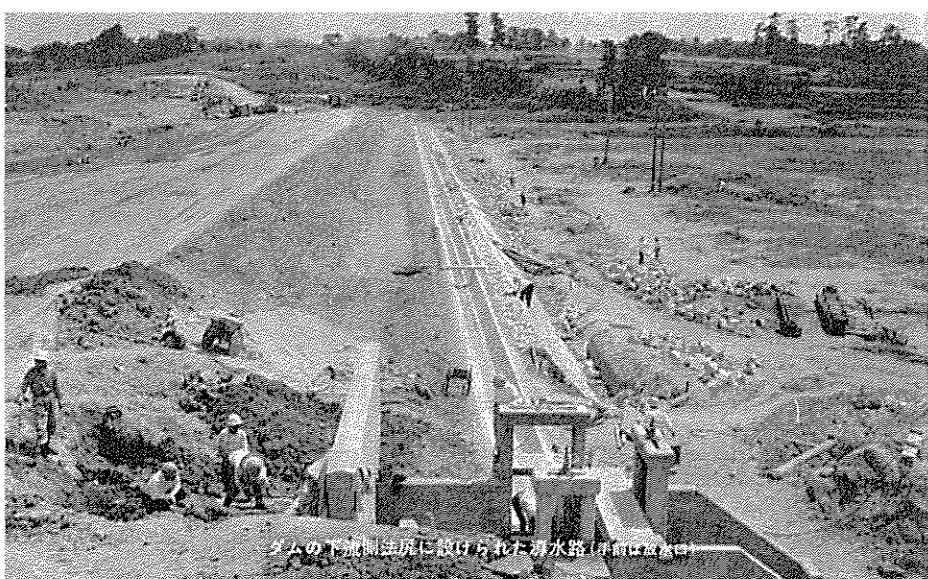


今年の
田植水に
間に合った
曲り池ダム

旧い曲り池の貯水量は26万トン、これを10mかさ上げして8倍の203万トンにふやそうというのが曲り池ダムの計画だ。しかし新設ダムとちがって、477haの水田が池の水を待っている。貯水したままの施工と、工事中も池の水を流し続けなければならないという2点が、曲り池ダム施工の特色であると同時に、困難な課題でもあった。そのため、この現場でもやはり夜間作業が横行される一方、比急取水のための段取にあらかじめ考慮を払いながら工事を進めていった。しかしその苦心は報いられて、取水塔をはじめ底樋、U字フリューム、放水口などの各設備が順調に運搬して、心配された田植水にも十分間に合うことができた。特に受益地の「好明」は早稲栽培がさかんなところなので、前記のタイムリーな施工は地元の人々から大変感謝されている。

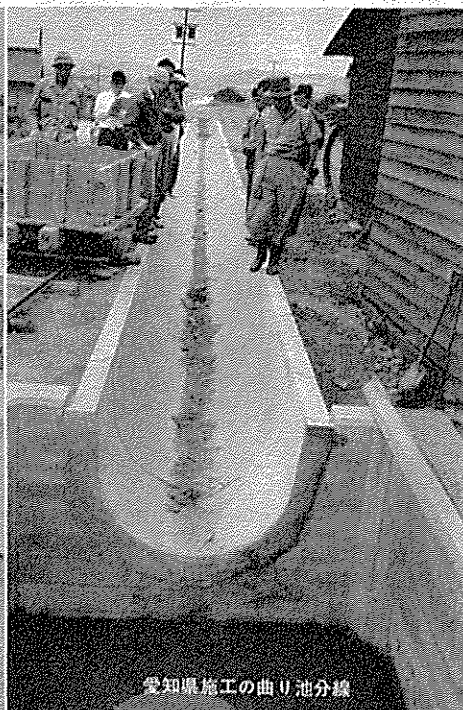
間に合ったタムの水で田植（三好村にて）



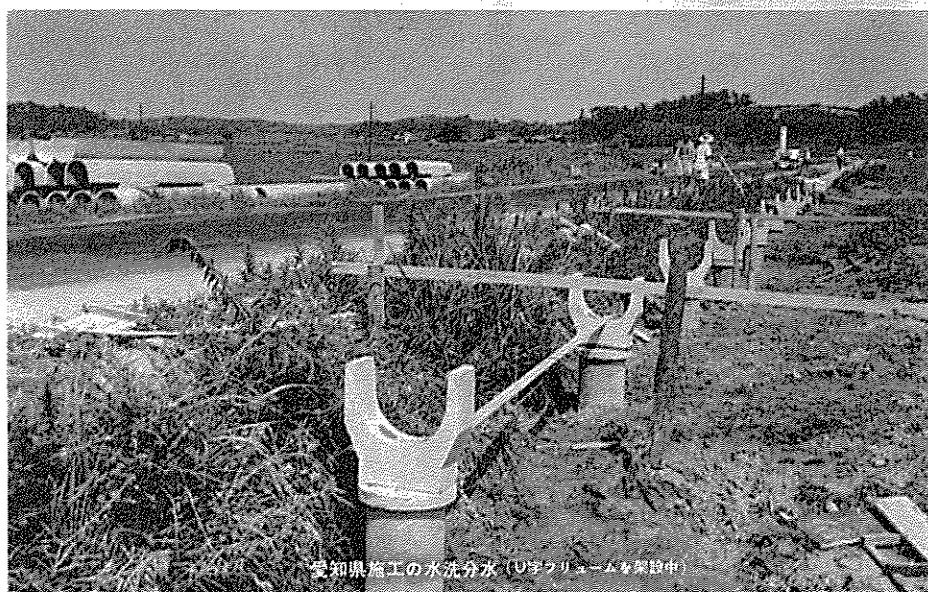
ダムの下流側法面に設けられた放水路（樋は底樋）



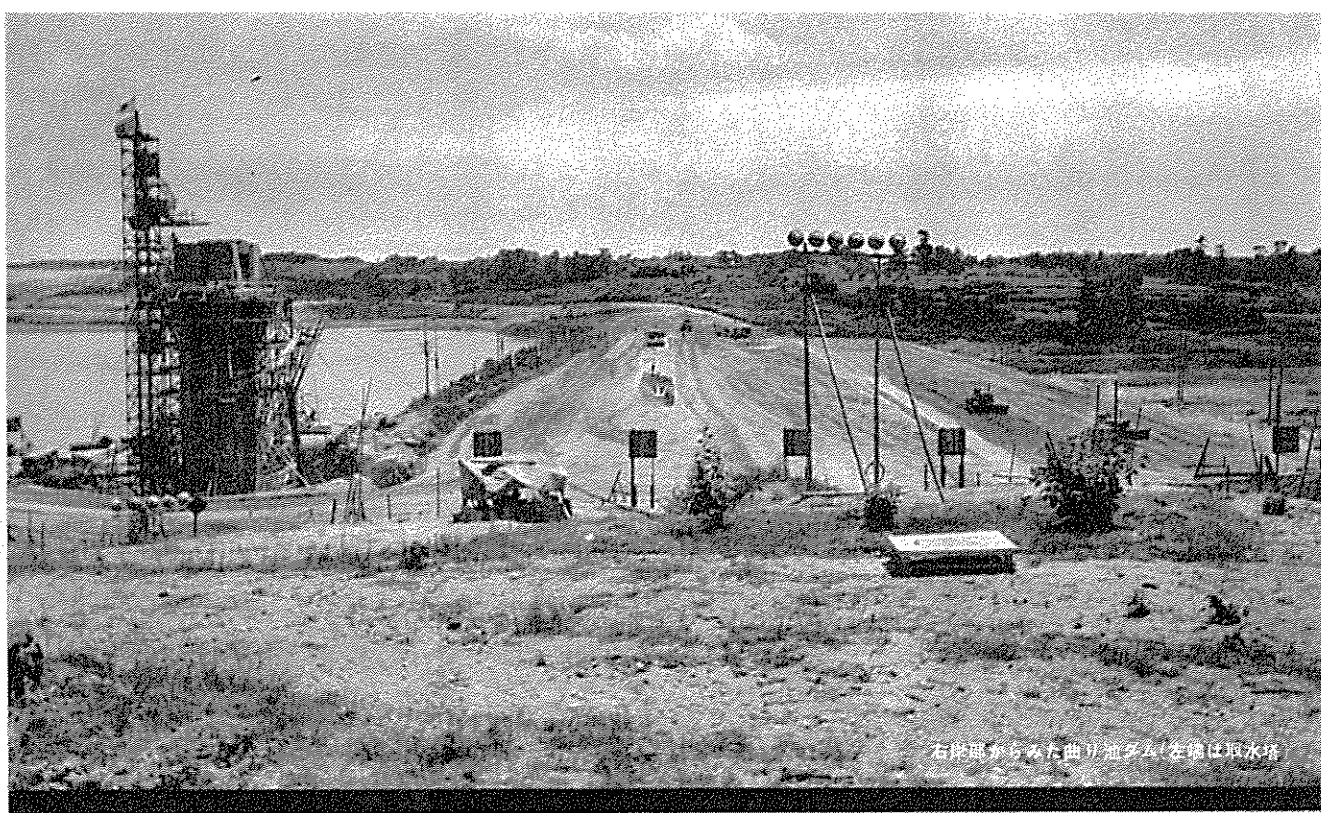
放水口（中央の丸い穴は取水塔からの底樋）



受知県施工の曲り池分線



受知県施工の水洗分水（U字フリュームを架設中）



右岸堤からみた曲り池ダム（左端は取水塔）

曲り池ダムにおける機械化施工
月35,000m³の盛土能率

このダム現場で活躍している工事用機械は、パワーショベル2台、ブルドーザー9台、モーターグレーダー1台、スクレーパー4台、ダンプトラック5台、タイヤローラー1台、タンピングローラー2台などであるが、現在の盛土は月間実働12.5日で35,000m³という能率をあげている。なお機械力をフルに活動させると最高月50,000m³を施工することができる。



左岸堤からみた曲り池ダム